

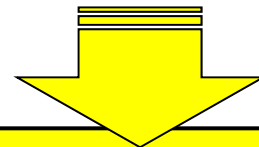
3. 考慮すべき論点(倫理的配慮を中心に)

a. 公共政策としてのナッジ

どのようにナッジをデザインすべきか

セイラーとサンステーン(2008年)の主張からの考察

- 役に立つと思われるナッジを与える際には、選択アーキテクトの意図が働く可能性がある
- 100%の中立はあり得ないが、やめるべきだとは思わない。その代わりに、インセンティブを調整できるときには調整し、できないときには監視して透明性を確保
- 公的部門でも民間部門でも、透明性を高めることを第一の目的にしなければならない
- こうした問題にアプローチするため、われわれの指針原則の一つに立ち戻ることにする。「透明性」である。・・・正当性を公然と主張できないか、そうする意思のない政策を選択してはならない・・・政府は統治する人々を尊重すべきであり、正当性を公然と主張できないような政策を導入するのは、統治する人々を尊重していないということだ
- 基本的な結論として、ナッジの評価は効果(人々に損害を与えるか、人々を助けるか)に左右される



効果をきちんと評価し、エビデンスに基づく政策立案を実施して透明性を高め、説明責任を果たすことが重要

どのようにナッジをデザインすべきか

日本版ナッジ・ユニット連絡会議 有識者(阪大・大竹教授)の指摘

ナッジには、

- 特定の目的を達成したいという気持ちをもっている人の行動を促進するものと、
- そのような理想的な目的をもっていない人に理想をもたせて行動させるというものがある

(第4回日本版ナッジ・ユニット連絡会議)

- 前者は比較的、政策的介入の妥当性の説明がしやすい
- 後者はとりわけ倫理的な配慮の検討が必要 (もちろん前者も)

再びセイラー教授：良いナッジ・悪いナッジ（スラッジ）

セイラー教授(2018)は、

- ナッジを通じて選択アーキテクチャーを改善することで、選択肢を制限することなしに人々が賢い選択をできるようになる
- 「自分自身にとってより良い選択ができるように人々を手助けすること」が目的（「**良いナッジ**」）
- 一方、賢い意思決定や向社会的行動を難しくするような「**悪いナッジ**」を「**スラッジ**（英語 sludge：ヘドロ）」と命名
- 公共部門・民間部門を問わずスラッジを一掃するよう働きかけ



良いナッジ・悪いナッジ（スラッジ）

「誰」にとって「良い・悪い」か

- 「ナッジの受け手」にとって vs 「社会」にとって？ 両者にとって「良い」ナッジが望ましいが、一方にのみ「良い」場合にはどうすれば良いか
- そもそも何が「良い・悪い」か

世と民を
忘れていないか



『What Money Can't Buy』：ハーバード大学Michael J. Sandel教授の著書
Governing Society, Rescuing/Saving Peopleはその問い掛けに対して発表者が示した答え

公共政策は「おもてなし」(行動を理解した上での政策立案・実践の手順)

Behaviorally-informed policymaking and practice

全体を通じた倫理的配慮



出典: 第12回日本版ナッジ・ユニット連絡会議資料

- ・ 国民や社会のニーズは何か
- ・ 政策目的は何か
- ・ それは重要で優先度が高いか

Need recognition

- ・ 解決すべき社会課題は何か
- ・ その課題に人々の行動は関わるか
- ・ 問題となる行動が起こる原因は
- ・ 改善すべき成果目標は何か

Uncovering problem

- ・ 従来の政策アプローチは何か
- ・ その他の考えられる政策オプションは
- ・ 費用や効果がより妥当なものはどれか
- ・ 効果を検証するための実験方法や体制は

Designing policies

- ・ 実施体制は整っているか
- ・ 政策オプションを(小規模で)実践する
- ・ 定量的・定性的に効果を測定する

Generating results

- ・ 効果を検証する
- ・ 結果を踏まえ、一連の過程を見直す
- ・ 政策の見直しや改善をする
- ・ 中長期的な効果を監視し、社会へのインパクトを測る

Evaluation & evolution

公共政策は「おもてなし」(行動を理解した上での政策立案・実践の手順)

Behaviorally-informed policymaking and practice

全体を通じた倫理的配慮



ナッジは必ずしも使う必要があるとは限らないが、政策立案の過程で様々な政策オプションを比較検討する際に、オプションの1つとしてナッジの活用を検討しているか？行動に起因する社会課題であればなおさら！

資料

m

- ・ 従来の政策アプローチは何か
- ・ その他の考えられる政策オプションは
- ・ 費用や効果がより妥当なものはどれか
- ・ 効果を検証するための実験方法や体制は

Designing policies

- ・ 実施体制は整っているか
- ・ 政策オプションを(小規模で)実践する
- ・ 定量的・定性的に効果を測定する

Generating results

- ・ 効果を検証する
- ・ 結果を踏まえ、一連の過程を見直す
- ・ 政策の見直しや改善をする
- ・ 中長期的な効果を監視し、社会へのインパクトを測る

Evaluation & evolution

そもそも、関心のある社会課題が
行動に起因するものであるのか？

ナッジをはじめ、行動インサイトを
適用すべき課題であるのか？



3. 考慮すべき論点(倫理的配慮を中心に)

b. 効果的なナッジ

効果的なナッジにするためのチェックリストの1つ “EAST”

- 各要素は効果的なナッジでよく見られる共通点を抽出したもの
- それを満たせば即ナッジとなるのではなく、満たさないとナッジにならないわけではない

● Make it ATTRACTIVE

- ・注意を引き付ける
- ・最大限の効果が得られるように報酬と措置を設計する
- ・選択肢の数に左右される

● Make it EASY

- ・デフォルトの力を活用する
- ・サービスを受ける際の「面倒な要因」を減らす
- ・メッセージを単純化する



● Make it SOCIAL

- ・多くの人々が望むであろう行動を示す
- ・ネットワークの力を使う
- ・他の人々へのコミットメントを奨励する

● Make it TIMELY

- ・人々が受け入れやすいときに促す
- ・費用と利益を考慮する
- ・事象に対する人々の対処を支援する

出所: The Behavioural Insights Team (2014), EAST Four Simple Ways to Apply Behavioural Insights, The Behavioural Insights Team

ナッジの活用を検討する前に

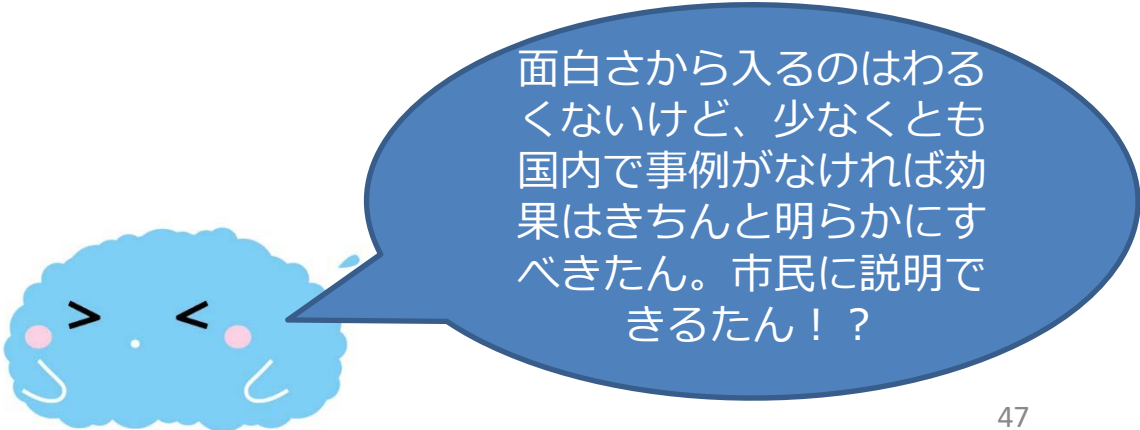
損失回避、社会規範、同調性・・・

そのナッジはその課題に本当に効果があるのか？

ナッジは人の心にどう響くかが鍵

国・文化が違えば、または、同じ国でも個人差はある

他でうまくいった事例が同じく効果があるとは限らない



面白さから入るのはわるくないけど、少なくとも国内で事例がなければ効果はきちんと明らかにすべきたん。市民に説明できるたん！？

3. 考慮すべき論点(倫理的配慮を中心に)

c. ナッジを超えて(Beyond Nudge)

原著Nudgeの発刊から10年、国際社会では「ナッジの先」を検討開始

- 英国ナッジ・ユニットの「成功」や『Nudge』共著者のノーベル賞受賞の後押しもあり、世界で200を超える組織が行動インサイトを活用
- 行動インサイトを活用した政策アプローチの代表例は「ナッジ」。成功事例が脚光を浴びる中、様々な指摘が挙げられている
 - ✓ 思うような効果が得られなかった事例も少なからずある
 - ✓ ナッジ単独ですべてがうまくいくわけではない
 - ✓ 効果を持続・増強させるにはどうすれば良いか
 - ✓ 他地域に展開させるにはどうすれば良いか
 - ✓ 一人ひとりに配慮した、よりパーソナライズしたアプローチは
 - ✓ 一人ひとりが自らにとってより良い選択を自発的に選んでいるか
 - ✓ 自らの判断でより良い選択ができるよう、自身の行動・習慣を見つめるきっかけや気づきを与え、リテラシーを高められるようになっているか
- 『Nudge』発刊から10年。こうした指摘を克服するため「ナッジの先」(Beyond Nudge)が国際的に検討されている

ブースト (boost : ぐっと後押しする) 「ナッジ」以外の行動インサイトを活用した新しい政策アプローチ

個人の技能と知識(コンピテンシー、リテラシー)を向上させ、人々が自分自身で主体的に選択する能力を育成する政策アプローチ:「ブースト」。

- ✓ 人々が行動を習慣化し、維持するには、本人の主体的な関与が欠かせない(行動変容ステージ理論で言えば、「無関心期」→「関心期」→「準備期」→「実行期」→「維持期」の後半を維持する)
- ✓ マックスプランク人間発達研究所が中心となり提唱。教育と一部似た概念
- ✓ 例えば環境学習。現状や課題を認識させ、自分ゴトとし、自らができることは何かを考えて実践に移すよう後押し
- ✓ 例えば医療統計の透明性ある設計。薦められた医学的検査の潜在的なメリットが潜在的なデメリットに勝るかどうかを患者自身が自分で判断できるようにする。患者自身が認知的な戦略を立てられるようにする
- ✓ 例えば栄養指導。栄養面で健康に役立つように家庭の食事環境を整える容易な方法を身に着けさせる
- ✓ 行為主体性の維持を目的とし、自ら行為主体性を発揮させることも可能とする



我が国は行動インサイトの活用で何周も周回遅れ



- ◆ 国際社会では、各種行動インサイトと伝統的政策手法（規制、財政、情報等）が補完し合う形でより良い政策が実現することを志向



- ◆ 我が国では、ようやくナッジが産学政官民のそれぞれの立場で浸透し始めてきたところ。行動インサイトを活用しようとする機運がある今が大事！
- ◆ 重要なのは、ナッジだけ、ブーストだけを取り上げるのではなく、いかに各種行動インサイトを伝統的政策手法の中に組み込んでいくか

令和でのBESTの活動内容について

- R元年7/1まで日本語・英語で国内外から意見募集を実施済み（グローバルパブコメ）
- 今後も追加すべき論点等あれば随時受付・検討

(1) 日本版ナッジ・ユニットBESTとしての全体戦略やロードマップの策定

- 行動に起因する社会課題の解決のためのイノベーション戦略（仮称）

(2) 倫理的配慮の深堀り、「良い」ナッジ・「悪い」ナッジの検討

(3) 日本のナッジの事例集作成、事例収集・紹介

- 行動経済学会とのコラボによるベストナッジ賞コンテストを継続



(4) 地方公共団体の参考に資する行動インサイト活用の手引きの作成

- ナッジ・ユニットの作り方も議論

(5) 府省庁・地方公共団体を対象としたキャパシティビルディング

- 環境省・内閣府・自治体のナッジ・ユニットやチームとの連携によりセミナー・WS実施

(6) 国際連携・国内外への発信の強化

- 5/24に国際シンポジウム「ナッジ・イノベーション・シンポジウムWISH」開催
- 行政機関向けに加え、7月には市民向け・業界団体向けにも講演・説明会実施
- 新聞各紙や業界誌の取材に対応
- 9月にBehavioural Exchange 2019参加、各国行政機関やナッジ・ユニットと対話

(7) BI-Tech（行動インサイト x 先端技術）によるパーソナライズ

- 成長戦略、統合イノベ戦略、AI戦略等の政府全体方針に位置付け
- 7月から8月にBI-Techを重点課題として実証事業の公募を実施



未来の
ために、
いま選ぼう。



ご清聴ありがとうございました

年次報告書や会議資料などはこちら



www.env.go.jp/earth/ondanka/nudge.html

Tadahiro IKEMOTO, D.Sc., MPH, MPA
Founder & President, Behavioral Sciences Team (BEST)
Deputy Director, Ministry of the Environment
Deputy Director, Cabinet Office